

動物診療助手第4回認定試験

問1.次の中から動物診療助手として正しい行動を1つ選びなさい。

- 1.飼育者からの挨拶を無視した。
- 2.電話を受けたときに相手側が分からないまま対応した。
- 3.飼育者からの質問に直ぐに答えるために、不明な事項でも獣医師に確認しないで回答する。
- 4.初診の飼育者に初診問診票の記入を依頼する。
- 5.聞き取りやすいように大声で個人情報を確認する。

正解 4.

飼育者だけではなく挨拶に対して無視することなく返礼する。受付においては相手側が挨拶する前に挨拶するように心がける。

電話対応では相手側が見えないため注意して対応する。相手側が誰であるかの確認は必ず行わなければならない。

自分で判断できない事項、不明な事項を適当に返答することは行わないで、必ず獣医師に確認して、獣医師の指示に従って返答する。

初診の場合は、住所・飼育者氏名等の飼育者情報が不明であるため、問診票等で飼育者情報の記載を依頼する。飼育者情報がないと診療簿（カルテ）の作成ができない。

大声で個人情報の確認を行うことは、他人に個人情報を漏洩することになり、大声で飼育者を驚かすことにもなるので、確認は飼育者が聞き取れる程度の声で行う。

問2.次の中から電話対応において間違っているものを1つ選びなさい。

- 1.電話対応は声のみでの対応のため、声のトーンが落ちないように姿勢を正して電話を受け、相手側に与える印象を意識する。
- 2.電話のコール5回以内に必ず応答する。
- 3.多忙なときでも丁寧に対応し、メモ等に内容を記録する。
- 4.問い合わせには動物病院を代表して回答するので、不明な事項は獣医師に確認して素早く回答する。
- 5.電話を切るときは、相手側が電話を切ったことを確認してから受話器を置く。

正解 2.

電話対応は相手側が見えないため対面時よりも注意が必要です。声のトーンが落ちないように姿勢にも注意して、できれば呼び出し音3回以内に応答するようにする。多忙な時でも丁寧な対応を心がけ、内容をメモ等に記録して、復唱により聞き間違いを防ぐ。問い合わせには正確な回答を行う必要があるので、不明な事項は獣医師に確認して、できる限り保留時間を短くする。電話を切る時は、相手側が切ったことを確認してから切る。

問 3.飼育者へのインフォームド（説明）において間違っているものを次の中から 1 つ選びなさい。

- 1.来院している飼育者家族全員へインフォームドする必要はなく、一人にだけインフォームドすれば十分である。
- 2.必要に応じて図や写真等を使用してインフォームドする。
- 3.検査データ等は基準値を示してインフォームドする。
- 4.専門用語を使用しないで飼育者が理解できる用語で分かりやすく客観的にインフォームドする。
- 5.飼育者側からの質問にはすべて回答して飼育者が理解できるように努める。

正解 1.

飼育者へのインフォームドコンセントの徹底において、飼育者側への説明（インフォームド）は来院した飼育者家族にも行う必要がある。同意（コンセント）も飼育者家族全員が同意する必要がある。

説明（インフォームド）は図や写真等を使い、検査データは基準値を示してその比較等を行い、専門ではない飼育者側が理解できるように分かりやすい用語を使用して、客観的な説明を行い、飼育者側が理解することが重要である。質問については、ごまかしたりしないで正確に回答する。そのうえで、飼育者側の同意を得るようにする。

問 4.次の中から動物診療助手としての業務に対する姿勢として正しいものを 1 つ選びなさい。

- 1.ユニフォームの血液等の汚れは業務には支障がないので着替える必要はない。
- 2.糞便等の付着した悪臭は、香水で悪臭を隠す。
- 3.受付ではカルテ整理や会計処理等の業務中であっても待合室の様子に気を配る。
- 4.十分に満足していないで質問がある様子の飼育者から話しかけられないようにする。
- 5.親しくない飼育者には自分から話しかけない。

正解 3.

業務に対する姿勢は、相手側を不快にさせない・不安にさせない・不信を抱かせないである。そのため、汚れたユニフォームは着替えて、悪臭は香水等の強いニオイで隠すのではなく消臭し、飼育者からの質問には積極的に正確な回答をし、誰にでも親しく話しかけるように努力する。受付では待合室の様子に常に気を配り、必要があれば適切に対応する。

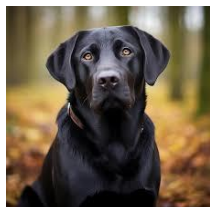
問 5.写真の動物の品種を次の中から 1 つ選びなさい。



1. ラブラドルレトリバー
2. ゴールデンレトリバー
3. フラットコーテッドレトリバー
4. バーニーズマウンテンドッグ
5. ラグドール

正解 2.

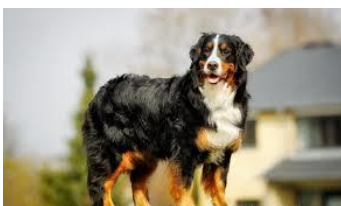
ラブラドルレトリバー



フラットコーテッドレトリバー



バーニーズマウンテンドッグ



ラグドール



問 6.受付業務において来院動物の緊急性が最も高い状態を次の中から 1 つ選びなさい。

- 1.脱毛
- 2.起立不能
- 3.肥満
- 4.呼吸停止
- 5.嘔吐・下痢

正解 4.

緊急性が最も高い状態は生命に関わる状態である。脱毛、肥満、嘔吐・下痢は今すぐに生命の危機とはならない。起立不能も心肺停止でなければ早期に生命の危機となることはない。心肺機能が停止した状態が最も緊急性が高いので、呼吸停止となる。

問 7.獣医師不在時に交通事故によって出血・外傷がある急患が来院したときに動物診療助手の対応として正しいものを次の中から 1 つ選びなさい。

- 1.緊急事態として医薬品等を使用して自分で応急処置する。
- 2.獣医師に連絡して近隣動物病院に診察を依頼する。
- 3.獣医師の帰宅まで飼育者を待たせる。
- 4.圧迫包帯等で止血して動物を入院させる。
- 5.自分で緊急性が高くないと判断したときは再来院してもらう。

正解 2.

獣医師不在時の急患の来院に対しては、緊急性が低ければ再来院または獣医師に連絡して入院措置の対応を行う。交通事故による出血・外傷の場合に心肺停止となることも考慮すると獣医師に連絡して対応可能な近隣動物病院に診察を依頼するのが妥当な対応である。緊急性の判断を自分が行って状態の悪化が起こった場合には判断の誤りとなるので、最悪を考えて近隣動物病院へ診察依頼するべきである。絶対に行ってはいけない対応は、資格のない者による応急処置等の獣医療行為となる。

問 8.次の中からトイプードルを 1 つ選びなさい。





5.

正解 2.

1.スコティッシュフォールド、2.トイプードル、3.ヨークシャーテリア、4.シーズー、5.ポメラニアン

問 9.次の中から迷子の犬猫を保護したときの対応として間違っているものを 1 つ選びなさい。

- 1.警察への届出
- 2.動物園への連絡
- 3.動物愛護センターへの連絡
- 4.マイクロチップリーダーでの確認
- 5.首輪や迷子札の確認

正解 2.

迷子の犬猫を保護した場合は、飼育者を探す必要がある。飼育者は所有する犬猫が行方不明となった場合は、都道府県動物愛護センターや警察署に通報するので、動物愛護センターや警察署に問合せする。また、首輪や迷子札に連絡先が記載されていれば飼育者に連絡できる。令和 4 年 6 月 1 日以降は販売される犬猫にマイクロチップの装着と登録が義務となっているので、マイクロチップリーダーによって読み出しを行いマイクロチップが装着されていれば登録から飼育者情報が判明する可能性が高い。飼育者情報が正しく登録されていない場合でもマイクロチップの製造番号から装着を実施した動物病院が判明する可能性がある。

問 10.次の中から泌尿器ではない臓器を 1 つ選びなさい。

- 1.腎臓
- 2.脾臓
- 3.尿管
- 4.膀胱
- 5.尿道

正解 2.

泌尿器系は尿を産生・貯留・排出する臓器等である。尿は腎臓の糸球体で血液をろ過して原尿が産生され、腎臓の尿細管において必要な水分・ミネラル等を再吸収し、尿管を通過して膀胱に貯留する。排尿時に膀胱が収縮して尿道を通過して排泄される。

脾臓は、造血・リンパ系である。

問 11.次の中から左心房と左心室の間の弁を 1 つ選びなさい。

- 1.大動脈弁
- 2.肺動脈弁
- 3.半月弁
- 4.僧帽弁
- 5.三尖弁

正解 4.

哺乳類の心臓は 2 房 2 室で左右に 1 房 1 室となっている。右心房と右心室の間には三尖弁、右心室と肺動脈の間に肺動脈弁、左心房と左心室の間に僧帽弁、左心室と大動脈の間に大動脈弁がある。

問 12.次の中から動物の保定について間違った記述を 1 つ選びなさい。

- 1.保定の目的は、動物と保定者・獣医師・飼育者の安全を確保してスムーズな診療を行うことである。
- 2.保定はテクニックだけではなく、動物の性格や症状等を考慮して適切に行う。
- 3.初診の動物の場合は、飼育者からの情報収集や動物を観察して性格等を推測する。
- 4.保定はテクニックだけではなく、まずは力づくに動物を抑え込む。
- 5.暴れたり攻撃的な動物の保定は、動物を安心させて素早く保定する。

正解 4.

保定を行いスムーズに処置ができれば動物への負担が少なくなる。暴れたり興奮している動物から採血するとストレスパターンとなり本来の結果ではなくなるため、診断にも影響がでる可能性があり、信頼性が低下する。保定は動物の性格等によって方法を変えて行い、初診では性格等を把握できないので飼育者から情報収集して動物の反応を観て行う。力によって動物を抑え込むことは動物の負担になるので避けて、必要があれば鎮静剤や麻酔薬を使用する。保定を行うときは、自分自身の安全だけではなく、動物や処置する獣医師、飼育者の安全も確保する。

問 13.次の中から脈拍数および心拍数の計測において間違っているもの 1 つ選びなさい。

- 1.不整脈があるときは脈拍数と心拍数は同一にならない。
- 2.安静時に計測する。
- 3.心拍数は聴診器によって心音を計測する。
- 4.脈拍数は後肢内股部の大腿静脈を触知して計測する。
- 5.15 秒間計測して 4 倍、または 10 秒間計測して 6 倍し、1 分間の数とする。

正解 4.

脈拍数は動脈の拍動数、心拍数は心臓の拍動数である。通常は心拍数と脈拍数は同一であるが、不整脈が発生すると心室に血液が充填されない状態で心室の収縮が起こるので、心拍があっても脈拍が消失するため心拍数が脈拍数よりも多くなる。運動時、興奮時等では心拍数・脈拍数が増加するので、安静時に計測する。心拍は聴診器で心音を聴診して計測、脈拍数は大腿部内側の大腿動脈の拍動を触知して計測する。1 分間の回数を記録するが、10 秒間の回数を 6 倍、15 秒間の回数を 4 倍する。

問 14.次の中から抜糸剪刀を 1 つ選びなさい。



1.



2.



3.



4.

5.



正解 3.

1.メッツェンバウム剪刀、2.ワイヤー剪刀、3.抜糸剪刀、4.抜歯鉗子、5.外科剪刀、剪刀は所謂ハサミで刃があるものである。使用目的によって各種の剪刀がある。通常の外科学術において使用する外科剪刀、縫合した縫合糸を抜糸する抜糸剪刀、ワイヤーを切断するワイヤー剪刀、刃の部分が細く各種の切断や剥離に用いるメッツェンバウム剪刀等がある。抜歯鉗子には刃がなく、歯を保持して抜歯する。

問 15.次の中から抜歯鉗子を 1 つ選びなさい。

1.



2.



3.





4.



5.

正解 5.

1.腸鉗子、2.タオル鉗子、3.骨剪刀、4.持針器、5.抜歯鉗子、鉗子はものを保持すること等を使用する。歯を保持して抜歯する抜歯鉗子、有窓布（ドレープ）を術野に固定するタオル鉗子、血管を保持して止血等を行う止血鉗子、組織を保持するアリス鉗子等がある。縫合のときに縫合針を保持して縫合する持針器（把針器）、骨を切断する骨剪刀である。

問 16.次の中から血液検査のために採血する前肢の血管を 1 つ選びなさい。

- 1.外側伏在静脈
- 2.頸静脈
- 3.尺骨静脈
- 4.橈側皮静脈
- 5.上腕静脈

正解 4.

主に採血を行う静脈は、橈側皮静脈、外側伏在静脈（サフェナ静脈）、大腿静脈、頸静脈で、ウサギの場合は耳静脈を使用する。橈側皮静脈は前肢、外側伏在静脈は後肢外側、大腿静脈は後肢大腿部内側、頸静脈は頸部に存在する。

問 17.次の中から 2 番目に細い注射針を 1 つ選びなさい。



正解 1.

注射針の太さは G（ゲージ）で分類し、数字が大きいほど細くなる。写真の注射針は細い順に 26G、25G、23G、21G、19G となる。注射針の長さはインチで分類されていて数字が大きいほど長くなる。

問 18.次の中から経口投与を意味する略語を 1 つ選びなさい。

- 1.SC
- 2.IP
- 3.PO
- 4.IM

5.IV

正解 3.

薬剤投与経路の略称は、皮下投与：SC、静脈内投与：IV、筋肉内投与：IM、腹腔内投与：IP、経口投与：PO となる。

問 19.次の中から一般外科手術に必要としない器具を 1 つ選びなさい。

- 1.止血鉗子
- 2.ハンドスケーラー
- 3.メス柄およびメス刃
- 4.ステイプラー
- 5.外科剪刀

正解 2.

一般的に外科手術で行うことは、切開・止血・縫合等である。切開等にはメス・剪刀等、止血には止血鉗子等、縫合には持針器・縫合針・縫合糸・ステイプラー等を使用する。

ハンドスケーラーは歯石除去に使用する。



止血鉗子

ハンドスケーラー (キュレット)



メス柄 (メスハンドル)



メス刃



ステイプラー



外科剪刀

問 20.次の中から注射針やメス刃等の鋭利な医療廃棄物を収納するバイオハザードマークを1つ選びなさい。



正解 3.

バイオハザードマークは、特定の病原体等感染症を引き起こす可能性がある物質が含まれていることを警告するマークです。バイオハザードマークには廃棄物の種類によって赤色・オレンジ色・黄色の3つに分類されます。

赤色は、液体または泥状の感染性廃棄物で、血液・血漿・血清・体液等で廃液等が漏洩しないプラスチック製容器か内袋を使用した段ボール等の丈夫な密閉容器に保管する。

オレンジ色は、血液や汚染物が付着したガーゼ・廃プラスチック類等の固形物で、内袋を使用した段ボール容器か二重にしたビニール袋に入れて保管する。

黄色は、病原体が付着したメス刃・注射針等の鋭利な感染性廃棄物で、破損によって鋭利な部分が生ずる可能性があるシャーレ・試験管等も含む。金属やプラスチックの頑丈な密閉で

きる容器に保管する。

問 21.次の中から留置針を血管内留置するために必要がないものを 1 つ選びなさい。

1. 駆血帯
2. 消毒用アルコール
3. インジェクションプラグ
4. 縫合糸
5. テープ

正解 4.

留置針を血管内に留置するためには、静脈注射と同様に静脈穿刺して留置針を静脈に挿入するため、駆血する必要があるので、駆血帯・消毒用アルコールを使用する。留置針を固定するために外科用テープを使用して、輸液チューブを繋ぐインジェクションプラグを装着する。縫合糸によって留置針を固定すると取り除きにくいため縫合糸による固定は行わない。

留置針



インジェクションプラグ



留置針+インジェクションプラグ



問 22.次の中から栄養カテーテル等のカテーテルで最も太いものを 1 つ選びなさい。

1. 3Fr
2. 4Fr
3. 6Fr
4. 8Fr
5. 10Fr

正解 5.

カテーテルの太さは Fr (フレンチ) で表示する。数字が大きい程太くなるので、3Fr、4Fr、6Fr、8Fr、10Fr の順で太くなる。

問 23.次の中から血液生化学検査において肝機能に関連しない項目を 1 つ選びなさい。

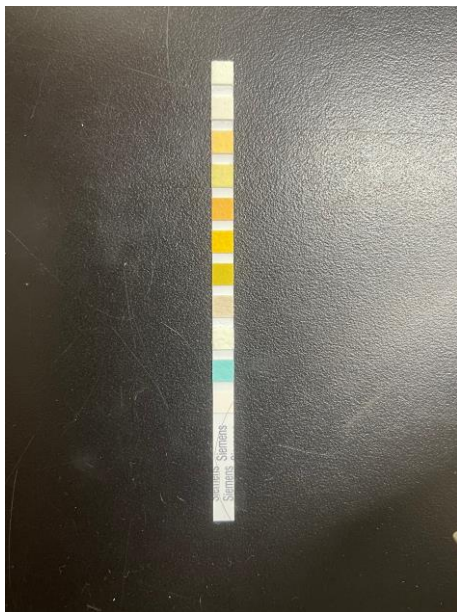
- 1.BUN
- 2.AST(GOT)
- 3.ALP
- 4.ALT(GPT)
- 5.T-Bil

正解 1.

肝機能は、肝細胞内酵素や肝細胞が産生する胆汁の色素であるビリルビン等で判断するので、細胞内酵素の AST(GOT)・ALT(GPT)・ALP 等や T-Bil 等によって判断する。

BUN は尿素窒素で腎機能の判断で使用する項目である。

問 24.次の中から写真の試験紙を使用する検査を 1 つ選びなさい。



- 1.糞便検査
- 2.尿検査
- 3.血液検査
- 4.涙量検査
- 5.フィラリア抗体検査

正解 2.

1 枚の試験紙で多項目の検査ができるのは尿検査用の試験紙である。検査項目は試験紙によって違いがあるが、pH・蛋白・尿糖・潜血・ケトン体・ビリルビン等の項目が検査できる。

問 25.心電図検査において電極の色と装着部位の組み合わせで正しいものを次の中から 1 つ選びなさい。

- 1.右前肢に赤、左前肢に黄、右後肢に緑、左後肢に黒
- 2.右前肢に黄、左前肢に赤、右後肢に緑、左後肢に黒
- 3.右前肢に緑、左前肢に黒、右後肢に赤、左後肢に黄
- 4.右前肢に黒、左前肢に緑、右後肢に黄、左後肢に赤
- 5.右前肢に赤、左前肢に黄、右後肢に黒、左後肢に緑

正解 5.

心電図は四肢に電極を装着して心臓の電気活動を体表から計測する。陰性電極から陽性電極に向かう電気活動を陽性波形として記録する。標準誘導は双極肢誘導のⅠ誘導・Ⅱ誘導・Ⅲ誘導と増高単極肢誘導の aVR 誘導・aVL 誘導・aVF 誘導の 6 誘導になる。

Ⅰ誘導は陽性電極を左前肢（黄）、陰性電極を右前肢（赤）

Ⅱ誘導は陽性電極を左後肢（緑）、陰性電極を右前肢（赤）

Ⅲ誘導は陽性電極を左後肢（緑）、陰性電極を左前肢（黄）

aVR 誘導は陽性電極を右前肢（赤）、陰性電極を左前肢（黄）＋左後肢（緑）

aVL 誘導は陽性電極を左前肢（黄）、陰性電極を右前肢（赤）＋左後肢（緑）

aVF 誘導は陽性電極を左後肢（緑）、陰性電極を右前肢（赤）＋左前肢（黄）

各誘導において右後肢（黒）はアースに設定されているので電極の装着部位を間違えると正しく心電図を記録できない。

問 26.写真の装置を使用して行う検査を次の中から 1 つ選びなさい。



1. 血圧測定
2. 尿検査
3. 血液生化学検査
4. 心電図検査
5. 血球数測定

正解 3.



血圧測定は血圧計、尿検査は尿分析器、心電図検査は心電計、血球数測定（赤血球数、白血球数、血色素量、血球容積等）は血球計測器で行う。写真は血液生化学検査装置である。

問 27. 写真の器具の使用目的と名称で正しいものを 1 つ選びなさい。



1. 赤外線を患部に照射して血流を促進して炎症を抑える赤外線治療器
2. マイクロチップを読み取るマイクロチップリーダー
3. レーザーを患部に照射して炎症を抑えるレーザー治療器
4. *Microsporum canis* 犬小胞子菌の感染を証明するウッド灯
5. 超音波検査において超音波を照射する超音波プローブ

正解 4.



赤外線治療器



マイクロチップリーダー



レーザー治療器



超音波プローブ

写真はウッド灯である。

問 28.写真の試験紙を用いて行うことを次の中から 1 つ選びなさい。



- 1.尿の pH 測定
- 2.涙の分泌量測定
- 3.角膜損傷状態
- 4.口腔内の細菌
- 5.唾液の分泌量測定

正解 3.



尿マルチ試験紙



シルマー試験紙

尿 pH は尿の試験紙、涙量はシルマー試験紙で測定する。口腔内の細菌数や唾液分泌量を測定する試験紙はない。

写真はフルオロレセイン試験紙で眼球表面に試験紙の親水性のフルオロレセイン色素を滴下して疎水性の角膜表面に潰瘍等の損傷があると親水性の角膜実質が染色液で緑色に染まる。

問 29.次の中から病理組織検査のために組織を固定する溶液を 1 つ選びなさい。

- 1.メタノール
- 2.精製水
- 3.消毒用アルコール
- 4.ホルマリン
- 5.次亜塩素酸

正解 4.

病理組織検査は摘出した組織を細胞レベルで検査するものである。細胞の発生的起源、変性、異形成等を検査するため、病理組織標本を作製する必要がある。細胞は組織として摘出すると直後から細胞の壊死・腐敗等の変性を起こすので細胞の変性を防ぐために直ちに細胞を固定する必要がある。細胞の固定には 10%ホルマリン溶液を用いる。大型の組織の場合には中心部まで固定液が浸透するのに長時間必要となるので、割を入れて中心部まで固定液が浸透するようにする。固定後、検査センター等に送って病理組織標本の作製と病理診断を依頼する。

問 30.写真の器具を用いて行う検査を次の中から 1 つ選びなさい。



- 1.皮膚検査
- 2.神経学的検査
- 3.眼科検査

4. 歯科検査

5. 鼻腔検査

正解 2.

写真は大槌で、膝蓋腱反射等の神経学的検査で用いる。

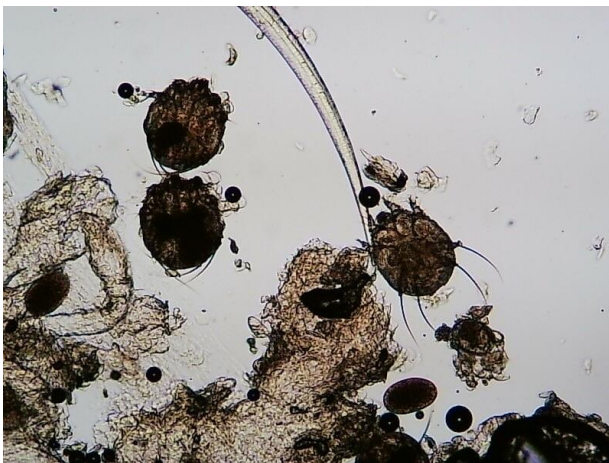
問 31. 次の中から X 線検査における注意事項について間違っているものを 1 つ選びなさい。

1. 放射線被曝から自分を守るために防護衣や防護手袋等を必ず装着する。
2. 個人の被曝線量を把握するためにフィルムバッジや線量計等のモニタリング器機を身に着ける。
3. 多くの被爆者を出さないために同一スタッフで撮影する。
4. 被曝線量を減らすために X 線管球からできる限り離れて、X 線照射時間を短くする。
5. X 線検査の詳細な規定は獣医療法施行規則に定められている。

正解 3.

放射線防護の三原則は、線源と人体の間に遮蔽物を設置する、線源からできる限り距離を置く、被曝時間をできる限り短時間にすることである。X 線撮影時に防護衣・防護手袋等を着用することは線源との間に遮蔽物を設置することになる。撮影時には可能な限り撮影台から離れて、X 線照射範囲を限定し、照射時間を短くする。被曝線量の上限等が獣医療法施行規則で定められているので、被曝線量のモニタリングのためにフィルムバッジや線量計を装着する。撮影に関わる者を特定してしまうとその者だけが被曝してしまうので被曝量の上限を超えてくる可能性が高くなるのでは特定しない方がよい。

問 32. 写真で示したものを次の中から 1 つ選びなさい。



1. 回虫卵

2. 糞線虫

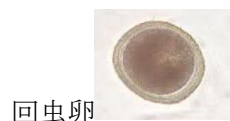
3.マダニ

4.ノミ

5.ヒゼンダニ

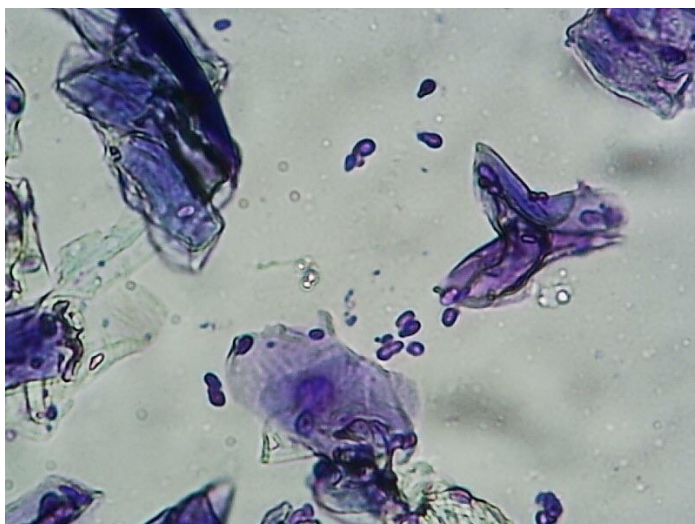
正解 5.

毛、毛根等が見られるので皮膚掻爬試験の写真である。4 対の足が確認できるのでダニ類であり、特徴的な円形であるので表皮内に寄生するヒゼンダニ（疥癬）である。



回虫卵、糞線虫は糞便検査で確認される。マダニ、ノミは皮膚表面にきさいする外部寄生虫で、肉眼で確認できる。

問 33.腹部皮膚炎から採取してメチレンブルーで染色したものであるが、次の中から確認できるものを1つ選びなさい。



- 1.ノミ虫卵
- 2.ブドウ球菌
- 3.マラセチア
- 4.白血球
- 5.赤血球

正解 3.

メチレンブルー染色された皮膚検査標本で、マラセチアの特徴的な形態であるダルマ状が確認できる。

問 34.次の中から光学顕微鏡では見ることができないものを1つ選びなさい。

- 1.好中球
- 2.大腸菌
- 3.ミクロフィラリア
- 4.コロナウイルス
- 5.回虫卵

正解 4.

光学顕微鏡で見ることができる限界は 200 nm ぐらいである。

好中球の大きさは 15 μm ぐらい、大腸菌は長さ 4 μm ぐらい、ミクロフィラリアは長さ 250 μm ぐらい、コロナウイルスは 100 nm ぐらい、回虫卵は 50 μm ぐらいであるので、光学顕微鏡でコロナウイルスを見ることは不可能である。

ウイルスの定義は、光学顕微鏡で見ることができない粒子であるので、ウイルスは光学顕微鏡で見ることができなので電子顕微鏡でなければ観察できない。

問 35.次の中から入院動物管理について間違っているものを1つ選びなさい。

- 1.入院室・入院ケージは清潔に保ち、適切な温度・湿度を維持するように管理する。
- 2.ケージの床には動物が滑らないようにペットシートやタオル等の敷物を敷いて、ずれるようであればガムテープ等で固定する。
- 3.使用済みのタオル等は水につけ置きしてから洗濯する。
- 4.ケージに動物を入れた後はしばらく観察して、敷物をかじったり食べたりするようであれば取り除く。
- 5.使用後のケージは、天井・側面・床面・扉部分のすべてを適切な消毒剤で消毒する。

正解 3.

入院動物の管理においては、入院室の温度・湿度を適切に管理する必要がある。温度・湿度

は変化しないように一定に維持する。ケージの床は滑らないように敷物を敷くが、入院動物が敷物をかじるようであれば敷物を取り除く。院内感染を防止する目的で使用済みのタオル等は消毒液に付け置きしてから洗濯する。ケージは天井・側面・床面・扉を消毒剤で消毒する。タオル等でケージを清掃する時は上から下、奥から手前に拭き取る。

問 36.次の中から動物病院スタッフへの感染に注意する必要がある感染症を 1 つ選びなさい。

- 1.犬ジステンパー
- 2.犬パルボウイルス感染症
- 3.重症熱性血小板減少症候群
- 4.猫免疫不全ウイルス感染症
- 5.猫汎白血球減少症

正解 3.

スタッフへの院内感染を注意する必要がある感染症は人獣共通感染症になる。ウイルス性感染症で犬猫からは狂犬病、重症熱性血小板減少症 (SFTS)、鳥からは高病原性鳥インフルエンザ等、細菌性では犬猫からパストレラ症等、犬からレプトスピラ症、ブルセラ症等、猫から猫ひっかき病 (バルトネラ症) 等、真菌性では犬猫から皮膚糸状菌等、クラミジア性では鳥からオウム病、原虫性では猫からトキソプラズマ症等に注意が必要である。感染防止のためには防護衣・マスク・手袋・フェースガードを着用する。

人獣共通感染症ではない犬ジステンパー (CDV)・犬パルボウイルス感染症 (CPV)・猫免疫不全ウイルス感染症 (FIV)・猫汎白血球減少症 (FPL)・猫白血病ウイルス感染症 (FeLV) 等は人への感染はないが、動物間での院内感染を起こさないように隔離等の対策は必要である。

問 37.次の中から犬に中毒を起こして貧血になる可能性がある食物を 1 つ選びなさい。

- 1.タピオカ
- 2.タマネギ
- 3.リンゴ
- 4.レーズン
- 5.大豆

正解 2.

犬が食べると中毒を起こす食材はタマネギ・長ネギ等のネギ類、ブドウ・レーズン等があるが、ブドウ・レーズンでは腎不全を発症、ネギ類は溶血を起こすので重症では溶血性貧血となる。

問 38.フードの消費期限が 05/08/27:DD/MM/YY と記載されている場合の期限を次の中から 1 つ選びなさい。

- 1.2027 年 8 月 5 日
- 2.2005 年 8 月 27 日
- 3.2027 年 5 月 8 日
- 4.令和 5 年 8 月 27 日
- 5.令和 8 年 5 月 27 日

正解 1.

DD/MM/YY の D は Day、M は Month、Y は Year のことであるので 05/08/27 は 05 日/08 月/27 年で 2027 年 8 月 5 日となる。

問 39.次の中から犬に食べさせることができる食物を 1 つ選びなさい。

- 1.ブドウ
- 2.キシリトール
- 3.チョコレート
- 4.タマネギ
- 5.リンゴ

正解 5.

犬がブドウを食べると腎不全を起こす可能性があり、キシリトールを食べると吸収できないので低血糖・消化器症状を起こす可能性があり、チョコレートを食べると消化器症状・発熱・けいれん発作を起こす可能性あり、タマネギを食べると溶血を起こす可能性がある。

問 40.次の中から脂溶性ビタミンではないものを 1 つ選びなさい。

- 1.ビタミン A
- 2.ビタミン C
- 3.ビタミン D
- 4.ビタミン E
- 5.ビタミン K

正解 2.

ビタミンには水に溶ける水溶性ビタミンと油に溶ける脂溶性ビタミンがある。水溶性ビタミンはビタミン B1・B2・B6・B12・C、脂溶性ビタミンはビタミン A・D・E・K である。水溶性ビタミンは過剰に摂取しても腎臓から排出されるが、脂溶性ビタミンを過剰に摂取

すると脂肪組織に蓄積されるので注意が必要である。

問 41. 東京において次の条件のときに熱中症リスクの高い順序で正しいものを 1 つ選びなさい。

- a. 11 月の晴天午後 1 時に車中に 5 分間放置
- b. 7 月の晴天午後 4 時にアスファルト道路を 1 時間散歩
- c. 12 月に 42℃の湯船で 30 分間入浴

- 1. a-b-c
- 2. a-c-b
- 3. b-a-c
- 4. b-c-a
- 5. c-a-b

正解 4.

発汗によって体温調節を行う動物と発汗がない動物では熱中症の発生機序に違いがある。

問 42. 次の中から交尾排卵動物を 1 つ選びなさい。

- 1. 馬
- 2. 牛
- 3. 犬
- 4. 猫
- 5. 豚

正解 4.

交尾排卵動物以外は卵巣で卵胞が発育して発情が起こり成熟すると交尾刺激がなくても排卵が起こり、黄体が形成されて黄体ホルモンを分泌するので卵巣での卵胞の発育と発情は抑制される単発情性である。交尾排卵動物は卵巣で卵胞が発育して発情が起こり、卵胞が成熟する時に交尾刺激があると排卵するが、交尾刺激がないと排卵が起こらないので黄体が形成されないため黄体ホルモンの分泌がなく次の卵胞が発育して発情が起こる多発情性である。

問 43. 次の中からワクチンによって予防できない感染症を 1 つ選びなさい。

- 1. 犬糸状虫症
- 2. 犬ジステンパー
- 3. 狂犬病
- 4. 猫カリシウイルス感染症
- 5. 猫白血病ウイルス感染症

正解 1.

犬の感染症の中で日本においては狂犬病・犬ジステンパー・犬パルボウイルス感染症・犬コロナウイルス感染症・のワクチンが販売されています。

猫の感染症の中で日本においては狂犬病・猫汎白血球減少症・猫伝染性鼻気管炎・猫カリシウイルス感染症・猫白血病ウイルス感染症・猫免疫不全ウイルス感染症のワクチンが販売されています。

犬糸状虫症（フィラリア症）はワクチンによる予防ができないが、予防薬は販売されています。

問 44.人獣共通感染症について次の中から間違っている記述を 1 つ選びなさい。

- 1.人と人以外の脊椎動物の間を伝播する感染症である。
- 2.狂犬病、高病原性鳥インフルエンザ、SFTS 等多くの感染症がある。
- 3.医学と獣医学が連携して対応する必要がある。
- 4.飼育動物から飼育者に感染することはない。
- 5.感染を防ぐために野生動物との接触は避ける。

正解 4.

人獣共通感染症は人と人以外の脊椎動物の間を伝播する感染症で寄生虫性、食中毒も含まれる。原因病原体がウイルスの狂犬病、高病原性鳥インフルエンザ、SFTS、SARS、ダニ媒介性脳炎等、細菌による炭疽、結核、ブルセラ、赤痢、サルモネラ症、レプトスピラ症、猫ひっかき病（バルトネラ症）、パストレラ症、O-157 等、真菌による皮膚糸状菌症、クリプトコッカス症、リケッチアによる Q 熱、紅斑熱、クラミジアによるオウム病、原虫によるトキソプラズマ症等、寄生虫によるエキノコックス症、日本住血吸虫症、アニサキス症、回虫幼虫移行症、疥癬症等に分類できる。感染症への対応は医学と獣医学が連携する必要がある。野生動物がどのような感染症に感染しているかは不明であり、未知の感染症があることも考えられるので野生動物の保護や接触を避ける。犬猫から人への感染は狂犬病、SFTS、皮膚糸状菌症、パストレラ症等、犬からの感染はブルセラ症、レプトスピラ症等、猫からの感染は猫ひっかき病等、鳥からの感染はオウム病等で、飼育動物から飼育者が感染することもある。

問 45.動物の愛護及び管理に関する法律において定められている動物愛護週間のある月を次の中から 1 つ選びなさい。

- 1.1 月
- 2.3 月
- 3.5 月

4.9 月

5.12 月

正解 4.

動物愛護週間は、動物の愛護及び管理に関する法律第 4 条において動物愛護週間は 9 月 20 日から 9 月 26 日までとすると規定されている。ちなみに愛鳥週間は 5 月 10 日から 5 月 16 日までと公益財団法人日本鳥類保護連盟が定めている。

問 46.動物の愛護及び管理に関する法律において犬の所有者が変更した場合にマイクロチップの所有者変更登録の義務が課される者を次の中から 1 つ選びなさい。

- 1.元の所有者
- 2.新しい所有者
- 3.元の所有者と新しい所有者の両者
- 4.マイクロチップ装着証明書を発行した獣医師
- 5.所有者変更登録は任意であるため義務はない

正解 2.

マイクロチップの装着及び登録の義務は動物の愛護及び管理に関する法律第 39 条において規定している。犬猫等販売業者は犬猫を装着しなければならない。マイクロチップは獣医師または獣医師の指示によって愛玩動物看護師が装着を行うことができる。獣医師はマイクロチップを装着したときにマイクロチップ装着証明書を発行しなければならない。犬猫の所有者はマイクロチップ装着証明書を添付して環境省に登録しなければならない。登録を受けると登録証明書が交付される。犬猫を譲渡するときは登録証明書とともに行う。犬猫を譲渡された者は、犬猫を取得した日から 30 日以内に変更登録を行わなければならない。

問 47.身体障害者補助犬法によって補助犬と規定されている正しいものを次の中から 1 つ選びなさい。

- 1.盲導犬と聴導犬
- 2.盲導犬と介助犬
- 3.盲導犬と介助犬とセラピードッグ
- 4.盲導犬と聴導犬と介助犬
- 5.盲導犬と介助犬と聴導犬とセラピードッグ

正解 4.

身体障害者補助犬法は、身体障害者補助犬の育成及び使用する身体障害者の施設等の利用の円滑化により、身体障害者の自立及び社会参加を促進することを目的にしている。第 2 条

において身体障害者補助犬は盲導犬・介助犬・聴導犬と規定している。

育成された身体障害者補助犬は厚生労働省が指定する社会福祉法人等の指定法人による認定を受けないと身体障害者補助犬と認められない。認定された身体障害者補助犬を同伴して施設等を利用するときには、身体障害者補助犬であることを表示しなければならない。

問 48.次の中から動物虐待がある又は動物虐待の可能性があるときの獣医師による通報義務を定めている法律を1つ選びなさい。

- 1.獣医師法
- 2.獣医療法
- 3.動物の愛護及び管理に関する法律
- 4.愛玩動物看護師法
- 5.鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律

正解 3.

獣医師法は獣医師の資格・業務に関する事項を定め、獣医療法は飼育動物診療施設開設と管理、獣医療を提供する体制の整備等に関する事項を定め、愛玩動物看護師法は愛玩動物看護師の資格・業務に関する事項を定め、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律は鳥獣の保護及び管理のための事業と猟具等の狩猟に関する事項を定めている。

動物の愛護及び管理に関する法律は、動物の虐待及び遺棄の防止、動物の適正な取扱い等を定めている。獣医師による動物虐待の通報義務は、第41条の2において定めている。

問 49.次の中から動物診療助手が実施できない業務を1つ選びなさい。

- 1.血液検査等の検査業務
- 2.保定等の診療補助業務
- 3.入院動物管理業務
- 4.動物用医薬品等の調剤業務
- 5.飼育者への給餌等の飼養指導業務

正解 4.

動物診療助手は獣医療に係る国家資格である獣医師・愛玩動物看護師ではないので、法律で定められた国家資格を必要とする業務は実施できない。医療においては血液検査等の検査業務は臨床検査技師の資格を必要としているが、獣医療においては資格を定めていない。保定等の補助業務・入動物管理業務・飼養指導業務の実施には資格を必要としない。調剤業務は薬剤師法によって薬剤師でなければ医薬品の調剤を行ってはならない（例外として獣医師が自らの処方について調剤を行うことは認められている。）と規定されているので、薬剤師以外による調剤業務は例外を除いて認められていない。

問 50.写真の動物に関して次の中から正しいものを1つ選びなさい。



- 1.犬である。
- 2.おそらくメスである。
- 3.草食動物である。
- 4.安静時の平熱は 35°C 台である。
- 5.通常は開口呼吸である。

正解 2.

三毛猫である。猫の毛色を決める遺伝子は X 染色体にある。メスの染色体は XX、オスの染色体は XY であるため白色以外の毛色をメスは 2 つ、オスは 1 つとなるため 3 色の毛色を持つ三毛猫はメスのみとなる。オスの三毛猫の遺伝子は染色体異常で XXY となっているため、繁殖能力がない。猫は肉食動物であり犬よりも肉食性が強い。安静時の体温は 38.5°C 前後であり、発汗はできないが犬のように高温環境で開口呼吸となることはほとんどない。これはグルーミングによって唾液を体表に付けることにより汗の代わりになっているためである。